

〔神皇正統記土御門〕土御門院諱は爲仁、後鳥羽の太子、中父の御門の例にて親王の宣下なし、立太子の義ばかりにて則踐祚あり、

○按ズルニ、父ノ御門ノ例トハ、後鳥羽天皇ノ親王宣下ナクシテ、後白河天皇ノ詔ニ由リ、安德天皇ノ皇太子トナリテ、即日踐祚シタマヒシヲ云フ、

〔良賢入道記〕永徳二年四月十一日庚寅、今日天皇後讓位于皇子幼主、六歳童體無立親王并立太子、直有受禪、御諱事兵部卿長綱卿撰申、幹仁躬仁之間、勅問、被用幹仁之由治定云々、中

現神度大八洲所知倭根子天皇、我詔旨良麻勅命乎、親王諸臣百官人等天下公民衆聞食止宣、朕以薄徳天、天日嗣乎承傳賜倍事漸送年序禮、愚庸之身波此位仁不可堪止、歎畏賜天、令避皇位賜、比那所念行天、那隨法仁、可有政止爲天、某王乎皇太子止、定賜天、此天日嗣乎、授賜布衆此狀乎、悟天清直乃心乎持天、皇太子乎輔導幾仕奉天、天下乎平介、令有與、下略、

〔皇年代略記後小松〕永徳二年四月十一日、受禪六、今日先立太子、不立親王、

〔續日本紀元六〕靈龜元年九月庚辰、天皇禪位于氷高内親王、元

〔續日本紀元七〕靈龜元年九月庚辰、受禪即位于大極殿、

○按ズルニ、元明天皇ノ皇太子ハ、聖武天皇ナレドモ、未ダ幼稚ナリシカバ、元正天皇ハ、太子ヲ越エテ直ニ受禪アリシナリ、

〔常永入道記〕應永十九年八月廿九日壬午、今日御讓位也、奉行頭右大辨藤原清長朝臣也、酉刻親王御方光、稱自裏松亭有渡御土御門内裏室町殿足利、爲御同車、有御參彼亭、公卿殿上人少々扈從、

〔椿葉記〕さてだいり、小松は御治天卅年、政務おぼしめすまゝにておりさせ給ふ、同十九年永、應八月廿九日、一の宮光、稱に御くらぬゆづり申さる、御治世はもとのごとくにて、よろづめでたく渡らせ給、

爲親王不爲太子而受禪